

研究の目的と活動の概要

和井田 節子（共栄大学）

1 趣旨

本研究は、災害や事件・事故等により学校危機に直面した教師や関係者の体験や語り、および研究者たちの活動から学び、現場を支え未来に活かしていくための理論や方法を教師教育学の視点から探ることにある。教訓から学び、諸課題を明らかにし、先行研究を検討し、未来に向けた提言を行うことを目指す。

なお、本特別課題研究は、東日本大震災後、本学会の特別課題研究として取り組んできた「大震災と教師教育」の成果や課題を継承するものとして、2015年3月より設置の準備を行い、9月の研究大会総会において設置されたものである。

2 「震災・学校危機と教師教育」研究会員

本特別課題研究は、研究会を組織して会員を広く募り、公開研究会と現地調査を柱にすえて活動してきた。

震災・学校危機と教師教育研究会会員（2017年4月現在）

研究会担当者名	【役 割】		所 属
和井田 節子	【担当理事・世話人・編集委員】		共栄大学
小島 勇	【担当理事・世話人】		東京電機大学
金馬 国晴	【世話人・編集委員】		横浜国立大学
神永 典郎	【編集委員】		白百合女子大学
三石 初雄	【学会長・参与】		帝京大学
研究会員名	所 属	研究会員名	所 属
赤田 信一	静岡大学	諏訪 清二	兵庫県立大学
市橋 真奈美	関西福祉大学	瀧野 揚三	大阪教育大学
岩切 昌宏	大阪教育大学	瀧本 知加	東海大学
内田 千春	東洋大学	田中 卓也	共栄大学
木内 仁美		長島 明純	創価大学
齋藤 眞宏	旭川大学	日野 彰	福島県富岡町立富岡第一中学校
笹田 茂樹	富山大学	本多 環	福島大学
清水 康幸	青山学院女子短期大学	松井 典夫	奈良学園大学
鈴木 久男	上田市塩田公民館	吉田 尚史	筑波大学大学院(博士課程)

3 研究活動の概要

本特別課題研究会は、現地調査と公開研究会を組み合わせて行ってきた。そして、研究大会で成果と課題を整理し研究方針を策定する場と位置づけて活動してきた。以下に、これまでの研究活動を時系列で記す。

1【第1回現地調査】長野県北部地震：長野県栄村 2015年5月9日-10日 <2-1>¹

第24回大会が信州大学だったこともあり、大会委員長の伏木久始信州大学教授の案内を得られ、東日本大震災の翌日に発生した「長野県北部地震」の現地調査を行った。学校が栄村の危機と復興を支える拠点の役割を果たしていたことがわかった。

訪問先（所在地）内容・話を伺った人

- ① 長野県下水内郡栄村 鈴木久男（元・栄村立北信小学校長）<2-2>
- ② 栄村教育委員会（栄村役場） 宮川幹雄教育長・藤木博吉事務局長・栄村立秋山小学校（当時）の齋藤充子教頭より聴き取り
- ③ 長瀬団地（旧・栄村立東部小学校校舎）、森宮野原駅、栄村立栄小学校（旧・北信小学校+東部小学校）、栄村被災地跡視察

2【日本教師教育学会第25回大会】信州大学 2015年9月20日

学会研究大会でシンポジウムとラウンドテーブルを実施した。学校危機と教師教育という立場での本特別課題研究の方向性について協議し、①防災教育の検討 ②教訓の継承 ③学校支援 について調査研究を行うという方針が確認された。なお、シンポジスト、指定討論者の報告内容は、本報告集に詳述されている。

（1）特別課題研究 シンポジウムと協議 司会：和井田節子

シンポジスト

- 鈴木久男（元・北信小学校校長）「長野県北部地震(栄村地震)と学校」<2-2>
日野彰（福島県楡葉町立楡葉中学校教諭）「福島の今と学校現場」<2-5>
諏訪清二（兵庫県立松陽高校教諭）「災害体験と防災教育・防災管理」<1-2>

指定討論者

- 瀧野揚三(大阪教育大学)「トラウマインフォームドケアという考え方」<1-3>
岩切昌宏(大阪教育大学)「喪失から始まること」<1-4>



左から司会の和井田、シンポジストの鈴木・諏訪・日野、指定討論者の岩切・瀧野各氏

¹ 本章では、本報告集に詳細がある部-章を<部-章>の番号で表記する。<2-1>は、「詳細は、本報告集第2部第1章を参照のこと」という意味である。

(2) ラウンドテーブル 司会：小島勇

シンポジウムのメンバーに福島県浅川町立浅川小学校の菊池ゆかり教諭も参加して報告後、小グループで協議し、最後に協議内容を全体で共有した。

3【第1回公開研究会】 テーマ：防災教育 2016年1月24日 <1-2>

「防災教育の考え方と実践の現状」兵庫県立松陽高等学校 諏訪清二教諭(当時)

兵庫県立舞子高等学校防災科の実践、および防災教育の現状と教師教育について報告があり(第2部第8章に詳述)、防災教育は学校危機の教訓の継承、および被災した学校へのケアと子どもたちの成長支援という点においても有効であることが示された。協議の中で、本研究会でも、被災経験の継承と未来の災害への準備としての教師教育の立場から、防災教育の在り方についても検討することになった。

4【第2回現地調査】 阪神・淡路大地震：兵庫県 2016年5月22日-23日 <2-7>

第1回公開研究会で紹介された舞子高校の実践の実際を知り、阪神・淡路大震災についても学ぶことを目的に訪問した。

訪問先(所在地)

- ① 人と防災未来センター(兵庫県神戸市)
- ② 北淡記念公園・野島断層保存館(兵庫県淡路市)
- ③ 兵庫県立舞子高等学校環境防災科訪問(兵庫県神戸市)

5【第2回公開研究会】 テーマ：福島の現状と課題

2016年6月22日

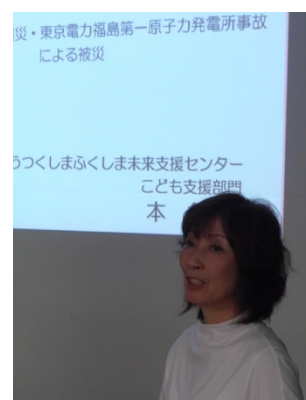
①兵庫現地調査報告(和井田節子) <2-7>

②福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

本多環特任教授<2-6>

「福島の子どもたちへのケアと支援の現状と課題」

全国に避難している福島の子どもたちへのケアと支援を行ってきた本多環氏による実践報告。現在も被災が続いているともいえる福島の子どもたちや教師たちがぶつかっている困難が示された。教師が教育的支援を続けつつ、主体的に医療・心理・福祉の専門家とつなぐという姿勢が重要であることが確認された。



6【第3回現地調査】 熊本地震：益城町・熊本市 2016年

本多環 特任教授

8月9日-10日 <2-9>

2016年4月16日に発生した熊本地震の被災地の現地調査を行った。なお、この訪問の企画では、橋本須美子校長と久木山ちどり校長に大変お世話になった。

訪問先(所在地)話をうかがった方

- ① 益城町教育委員会(熊本県上益城郡益城町)森永好誠教育長
- ② 益城町立広安西小学校(熊本県上益城郡益城町)井手文雄校長 <2-10>
- ③ 益城町立益城中央小学校(熊本県上益城郡益城町)廣瀬誠一郎校長
- ④ 熊本市教育委員会(熊本市中央区)濱平清志教育次長
- ⑤ 熊本市立託麻北小学校(熊本市東区)橋本須美子校長 <2-11>
- ⑥ 熊本市立飽田西小学校(熊本市南区)久木山ちどり校長
- ⑦ ニキ ハーティ ホスピタル(熊本市東区)仁木啓介理事長

7【日本教師教育学会第26回大会】帝京大学 2016年9月18日

熊本地震等の写真掲示パネルを設置し、参加をよびかけた。

(1) 特別課題研究 報告と協議 司会：金馬国晴

1) 熊本地震現地調査報告 (和井田節子) <2-9>

2) 実践者・研究者による報告、協議

①井手文雄(熊本県益城町立広安小学校校長) <1-4>

「熊本地震 被災地の学校からの報告」

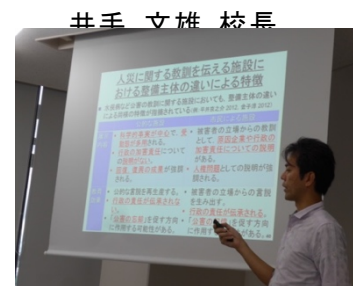
②後藤忍(福島大学共生システム理工学類環境計画研究室准教授) <3-2>

「教訓の継承と人権教育の視点から見た福島での原子力・放射線教育」



井手報告は、危機対応の実践であった。教職員の分担の明示と弱者支援体制、外部支援の活用、ユーモアが災害時のストレス軽減と復旧に有効に働くことを示した。また、後藤報告では、放射線教育には危機理解と危機予防という側面があり、防災教育には人権感覚が重要であることが示された。

会場で熊本地震への寄付を募り、井手校長を通じて広安西小学校に渡した。



井手 文雄 校長

後藤 忍 准教授

(2) ラウンドテーブル 司会：小島勇

報告の継続協議の位置づけであったが、実際には報告の参加者よりは新たに参加した人の方が多かった。震災後の子どもの心のケア、学校と地域や保護者との信頼関係、現状と課題、日本教師教育学会として見守り考察し発信することの重要性について、活発な議論が行われた。

8【第4回現地調査】 熊本地震：益城町・熊本市 2016年12月17日-19日 <2-9>

第3回熊本現地調査時は校内に避難所があった。その後の学校の様子を知るために第2回目の訪問を行った。今回は、南阿蘇も訪問し、大学の被災とケアについても考察した。なお、熊本市内では飽田西小学校の久木山ちどり校長に、南阿蘇では東海大

学の瀧本知加講師に案内をいただき、たいへんお世話になった。

訪問先（所在地）話をうかがった方

- ① 阿蘇郡南阿蘇村(南阿蘇村一宮・黒川地区)視察、東海大学農学部 of 学生と懇談
- ② 東海大学熊本キャンパス(熊本市東区)瀧本知加講師と懇談
- ③ 熊本城視察
- ④ 熊本市内で熊本市立託麻北小学校橋本須美子校長および熊本市立飽田西小学校(熊本市南区)久木山ちどり校長と懇談
- ⑤ 益城町文化会館を視察(熊本県上益城郡益城町)山口亮二館長 <2-12>
- ⑥ 益城町立広安西小学校(熊本県上益城郡益城町)井手文雄校長 <2-10>
- ⑦ 益城町立益城中央小学校(熊本県上益城郡益城町)廣瀬誠一郎校長
- ⑧ 益城町立木山中学校(熊本県上益城郡益城町)永瀬善久校長
- ⑨ 熊本空港周辺の仮設住宅の様子を視察

9【第3回公開研究会】 テーマ：被災地支援 2017年2月19日

1) 熊本地震視察報告 (和井田節子) <2-9>

2) 実践報告

兵庫県立松陽高等学校 諏訪清二教諭(当時) <2-8>

「被災地における防災教育とこころのケアを融合させた教育支援」

諏訪清二氏がこれまで世界的な規模で行ってきた学校支援や教育支援的活動について報告をいただいた。四川大地震とスマトラ沖地震への支援とその後の復興の道筋および日本からの教育支援活動、熊本の現状と課題、防災教育の心のケア機能、高校生や大学生のボランティア活動とその在り方について具体的な報告があった。災害時の学校や教師への支援の在り方について、教師教育の観点から協議が行われた。

10【第4回公開研究会】 テーマ：価値選択的な課題による教育 2017年5月28日 三石初雄 帝京大学教授 <3-3>

「公立学校で価値選択的課題をどう位置づけるか」

放射線教育について、欧米では、さまざまな立場の情報を伝え、価値選択的な課題にも取り組ませている。日本でもそのような授業をすすめる、開拓する必要がある、ということが協議の中で一致した見解となった。



公開研究会の協議の様子

11【第5回現地調査】 東日本大震災：福島県 2017年7月30日～8月1日 <2-3>

初回研究会から一貫して検討してきた福島における被災の現状・課題を理解するために、3日間の現地調査を行った。本現地調査の企画には、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの本多環教授をはじめ多くの方にご協力をいただいた。特に、未来支援センターの仲居康通・生江裕美子・高木紀子各氏には、案内もしていただき、

個人ではなかなかできない充実した訪問内容となった。

訪問先（訪問地）内容や話をうかがった方

- ① 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（福島市金谷川）
本多環特任教授 <2-6>
- ② 「環境再生プラザ（旧・除染情報プラザ）」（福島市栄町）。説明を聞く。
- ④ 避難解除の富岡・楡葉町視察（車窓より）。
- ⑤ 天神岬公園（楡葉町）洋上風力発電を公園から見学。
- ⑥ 「楡葉コンパクトタウン」（楡葉町）見学。復興新拠点の復興公営住宅を見学。
- ⑦ 楡葉北小・楡葉南小学校（楡葉町）を訪問。矢内賢太郎教育長、佐藤昌則楡葉北小学校長、鈴木孝彦楡葉南小学校長より話を聞く。
- ⑧ 「楡葉遠隔技術開発センター」（楡葉町）見学、説明を聞く。
- ⑨ 「福島県環境創造センター交流館『コミュタン福島』」（三春町）見学。
佐々木清教育ディレクターから放射線教育実践の話を聞き、館内を見学した。

12【日本教師教育学会第27回大会】奈良教育大学 2017年10月1日

本報告集を配付し、研究協議とラウンドテーブルを行った。



第27回大会で瀧本知加氏の報告を聞く参加者

（1）特別課題研究 研究報告と協議 司会：和井田節子

1）これまでの活動成果と課題<3-6>・福島現地調査報告<2-7>（和井田節子）

2）報告と協議

① 松井典夫（奈良学園大学教授）<2-14>

「事件の教訓から学ぶ教師学校安全：池田小学校事件からの発信を視点として」



説明する松井典夫氏

② 瀧本知加（東海大学講師）<2-13>

「大学の被災と復興を支える学生たち：大学での学びと安全なキャンパスをめざして」

8名の児童が命を奪われ、教員2名を含む15名の重軽傷者を出した大阪教育大学附属池田小学校事件の教訓から学校安全に関するシステムが生まれた。しかし、教訓の継承と活用が課題となっている。東海大学阿蘇キャンパスでは、熊本地震で3名の学生の命が失われた。その後の動向を報告するとともに、大学が考えるべき防災について協議した。また募金も行い、ボランティア活動を行う東海大学の学生達に寄付した。

（2）ラウンドテーブル 司会：小島勇

3年間のまとめとして、参加者とともにこれまでの活動を振り返り、教育の専門家が防災教育の推進と深化にかかわる必要性について確認した。